

日本工芸館

(大阪市浪速区)

ザ・見遊じあむ

40



2009年の干支にちなんで、大阪の郷土玩具・牛乗り天神・牛乗り童子も展示



ミュージアムメモ

▶所在地／大阪市浪速区難波中3-7-6
▶交通／地下鉄なんば駅から徒歩約10分。府立体育館の南西にあります。▶開館時間／10時～17時。入館は16時30分まで。▶休館日／月曜日、第2火曜日、展示入れ替え期間、年末年始休▶入場料／大人500円、高・大学生200円、小・中学生100円▶お問い合わせ／06-6641-6309

伝統工芸の美にひたるひと時

日本の伝統工芸品の保存育成と普及を目的に1950年、戦災を免れた江戸時代からの米蔵を改修して大阪市・堂島に開館した博物館。1960年に開館10周年を記念して現在の地(浪速区)に移転しました。城郭をアレンジした鉄筋コンクリートの建物の内部に

は、古丹波、古薩摩、古瀬戸などの陶磁器や石工、ガラス製品、郷土玩具など約1万3000点を収蔵しています。一番古い収蔵品は国の重要美術品の指定を受けている古丹波の壺で、康永3年(1344年)と銘

があります。大阪欄間など大阪の伝統工芸品の部屋もあり、申し出れば、手にとってみることもできます。収蔵品は美術工芸品と民衆的工芸品(民芸)に分けられ、年4回、テーマごとに展示会を開催。全国から一般公募して工芸作品の展

「K-20 怪人二十面相・伝」



新年から家族そろって「探偵ごっこ」にはまります

怪人二十面相といえば団塊の世代にはたいへん懐かしい響きがあります。しかしこの映画はオリジナルの江戸川乱歩の怪人二十面相のことなど忘れて、まったく新しいドラマと思って観てください。新年の休日、家族でそろって楽しめる映画であることは間違いないありません。舞台の設定も1949年の日本で、本来なら戦後まもない時代ですが、ドラマでは第二次大戦を回避した架空の日本になっています。国民は金持ちと貧民層に分かれた社会設定はあたたかもリストラ・解雇の雇用不安の

現代と相通じるものがあります。サーカス団員の遠藤平吉は、ひよんなことから怪人20面相の罠にはまって、ニセの怪人20面相に仕立て上げられ、明智小五郎や警察に追われる羽目に。逃走中に出会った義賊のからくり源治からは義賊の極意を授けられてモウ特訓が始まりました。この特訓も必見です。まず第一の極意は「ひたすら、まっすぐに走れ」。高い塔もビルも、前にある障害を飛び越えよじ登り、ひたすらまっしぐらに前進する描写に笑います。一方、本物の怪人二十面相は新兵器の謎が隠された絵画「バビルの塔」を巡って、明智小五郎とのバトルが続きます。その謎を解く鍵を持つているのが明智小五郎の婚約者の財閥令嬢・葉子。

ハリウッド映画ばりのアクションもありますが、全編にちりばめられたトリック、大道具に小道具、仕掛けがけっこう楽しめます。

このシネマ

ガラエイガ

大阪の戦跡を歩く

第39歩

箕面忠魂碑

(箕面市)



「政教分離」をめぐり、最高裁まで争われました

1916年(大正5年)に在郷軍人会が建立。忠魂碑は「戦没者の霊を慰め業績を顕彰する」として、戦前戦中、全国で神社の境内や公有地に建てられました。この忠魂碑は戦後、地中に埋められました。ところがその後、市費に

より元どおりに再建。祭礼に市の幹部が公費で参加することがおこりました。1976年(昭和51年)に住民がこれを違憲として、支出した公費の返還を求めて提訴。一審では「政教分離を定めた憲法に違反する」と判決が出されましたが、1993年(平成5年)の最高裁では「合憲」とされ、住民側の敗訴に終わりました。祭礼への公費支出は現在行われていません。

河内 三国誌

40

(堺市)

与謝野 晶子
「君 死にたまふことなかれ」

明治・大正・昭和初期の時代を生き、「情熱の歌人」と呼ばれた与謝野晶子は、1878年(明治11年)、堺市甲斐町で老舗の和菓子屋の三女として誕生しました。歌人・与謝野鉄幹の妻であり、11人の子どもの母でもありました。1901年(明治34年)に出版された「みだれ髪」は、鉄幹へのあふれる愛と青春のみずみずしさを歌い上げ、若い世代の圧倒的な支持を得て浪漫主義の代表作となりました。1904年(明治37年)、日露戦争で日本国中が沸き立つ中、招集されて出征した弟への思いを歌った「君死にたまふことなかれ」を文芸雑誌「明星」に発表。戦争で死ぬことが名誉とされた時



与謝野晶子



晶子の生誕地・堺市宿院に立つ歌碑

代に発表したこの歌は、「国家にそむく危険思想」として様々な誹謗を受けました。しかし晶子は「まことの心うたはぬ歌に、何の値打ちが候ふべき」と反論し、けっしてひるみませんでした。この歌碑が、晶子の母校である府立泉陽高校に建立されています。晶子は生涯を通じて「源氏物語」をはじめとする古典文学の現代語訳に情熱を注ぐ一方、女性の権利に焦点をあてた評論も多く著し、女性教育の分野でも積極的な役割を果たしました。1942年(昭和17年)に死去しましたが、女性の自由と自立、反戦平和を求めて力強く生き抜いた晶子の魅力は尽きることがありません。晶子の詠んだ歌は全国各地に歌碑として残されています。

人生はどんなにつらくとも
生きるに値する

チャールズ・チャップリン

映画「ライムライト」(1952年・米)の中で、チャップリンが扮する老コメディアン、カルヴェロが、クレア・ブルーム(英国女優)が演じる踊り子テリーを励ます言葉。この後に「そのためには3つのことが必要だ。それは勇気と希望とサブ・マネーだ」と続きます。「勇気」と「希望」は励ましの常套句ですが、チャップリンはこれに、サブマネー(わずかなお金)を付け加えました。

いまも心に響く
名詩・名歌・名語録

初心忘れるべからず

世阿弥

初めての時の気持ちを忘れてはならない。室町時代に能を大成させた世阿弥の修練書「花鏡」にある言葉です。新年会や新入社員への訓辞でよく使われますが、この言葉の本当の意味は、一定の熟練を備えた人に対して「慢心に陥らず、未熟で失敗続きであった最初の頃の気持ちを忘れるな」と戒めることにあります。初心者でなく、経験者にこそ向けられた言葉です。